

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ.理念に基づく運営				
1.理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	最後まで、自分らしく暮らしていけるようこの思いを理念に掲げ、生活を支えていけるようサービスに努めている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ホームに掲示しており、会議、ミーティングなど日頃から職員同士確認しながら、理念に基づいたケアを行っている		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・入居案内の資料に記載し、説明を行うと共に、家族会、家族面談などで説明している。 ・ホームの見やすいところに掲示しており2ヶ月に一回開催している運営推進会議などで、地域の方、ご家族へホームの考えを理解していただけるよう話しをしている。		
2.地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・ホーム独自の通信を毎月発行し、ご入居者と一緒に近隣の方に配布し、ホームのことを知っていただくよう努めている。 ・月に一度、ホーム内にて簡単な手作り教室などの地域交流行事を行っており、地域の方、子ども達などに参加していただき、交流を深めている。	○	行事以外でも、気軽に立ち寄っていただける環境作りを行なっていく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域清掃、運動会などの地域行事に参加し、地域の方との交流を行っている。 ・月に一度、ご近所のリサイクルBOXの担当をさせていただくことで、より地域の方と交流できる機会を、作ることが出来ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・気軽にホームに立ち寄っていただける環境を作り、介護相談などを行なっている。 ・近隣の独居生活をされている方の、安否確認を行いたいと考えている。	○	・安否確認に関しては、プラバシーの問題などもあるが、希望して下さる方がいれば行っていきたい。
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・評価の内容、意義を説明し理解している。 ・評価を全員が把握し、改善に向け取り組み、前回評価後より栄養ケアマネジメントに力を入れ、勉強会をおこなったり個別の対応も行っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・二ヶ月一回、運営推進会議を開催しており、ホームの状況、行事報告などを行なっている。毎回、多くの意見をいただいております。いただいた意見を基に、取り組みを行っている。いただいた意見に対する取り組みの報告も行っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・研修生、中学生福祉体験学習などの受入に協力をし、連携を図っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・研修などに参加し知識を得ている。 ・入居時、家族面談など必要に応じ、ご家族へ説明を行い、支援できるようにしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修に参加したり、勉強会を開催し、学んでいる。 ・虐待防止について、会議、ミーティング、申し送り時など、日頃から話をする事で、防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだ後、解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明、ホームの状況などをお伝えし、ホーム内の雰囲気を見ていただいたり安心して繋がるよう対応をおこなっている。 疑問点についても、その都度、説明を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご入居者が遠慮せず、意見、不満、苦情などを言えるような環境作りや個人面談を行なっている。 ・苦情窓口として施設の窓口、公的窓口を重要事項の中に記載し説明をしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・毎月の通信にてホームでの状況、健康状態、職員の異動などの連絡などを、報告している。 ・ご家族面会に来られた際には、近況の報告などを口頭にてお伝えし、状況に応じて電話やメールにて報告を行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・定期的に家族会、家族面談の機会を作り 意見をいただいている。 ・苦情窓口として、施設の窓口、公的窓口を重要事項の中に記載し、説明している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月のミーティング、会議などで意見や提案をしてもらっている。 ・年2回、個人面談を行い、個人的に話を聞く機会もつづけている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・通常、3人体制で勤務を組んでいるが、必要に応じ4人体制などの職員の勤務体制を変更している。 緊急な場合も対応できるよう 職員間で調整を行っている。 ・他階の状況把握にも努め、全体で対応できるよう努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・ご入居者の状況により 説明をおこなっている。職員異動の場合は、お互いが行ききすることで、安心して繋げている。 ・離職した職員にも、行事の際に声を掛けるなど、交流が無くならないよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援			
19 ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	・募集に際しては、性別、年齢、介護経験、資格などを理由に採用対象から排除することはない。 ・年2回、自己評価を行い、面談にて、職員1人1人と話しをする機会を作り、スキルアップに向けてもバックアップ体制が整っている。		
20 ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	・会議、ミーティング、申し送りなどで日頃から話しをしている。		
21 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・年2回、自己評価を行い評価、育成を行っている。 ・内外部の研修、自社スクールでの勉強会に参加できるよう機会を作っている。		
22 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・他事業所の研修などに参加する機会を作ったり、交換研修などを行っている。		
23 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・年に2回、管理者と職員の面談を行っている。 ・定期的に、職員の親睦会を行っている		
24 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・把握に努めると共に、年2回の自己評価、個人面談などを基に、必要に応じた育成、支援を行なうよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・入居前にご本人に面会をしたり、見学の機会をつくっている。 ・すぐに入居ではなく、体験入居やショートステイの利用をしていただき、ご本人の話を聴く機会を作っており、安心していただける関係作りに努めている。		
26	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・入居に関する相談に応じたり、話を聴く機会を作り、ご家族が持たれている不安や求めを受け止め、対応を行なっている。		
27	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ご本人、ご家族の求めに応じて、職員間で支援が可能であるかを検討し、必要に応じて、他のサービス利用の支援を行なっている。		
28	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・ホームの様子を説明し、実際にみていただき雰囲気をみていただいている。 ・いきなりの入居ではなく、体験入居などを通して、ご本人、ご家族と相談しながら入居などに繋げている。		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・ご入居者の生活のペースを大切にしながら、理念に掲げているよう喜怒哀楽を共有し、お互い助け合いながら生活出来るよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・ご入居者の日頃の状況を報告すると共に、ご家族とも一緒に喜びや悲しみを共有できる関係作りに努めている。		
31	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	・面会時などに、ご入居者の近況を報告し状況に応じて、スタッフが間に入り会話したり 電話で話す機会や手紙を出し合う機会を作っている。 ・外出、行事などの際に、ご家族にも声かけをし、参加していただいている。		
32	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう 支援に努めている	・ご本人、ご家族からの情報を基に、個人レクなどの際に、馴染みの場所への外出などを取り入れ、ご家族へも参加の声かけを行っている。		
33	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・外出、レクリエーションなどを通し、ご入居者同士の交流を図れる場をつくっている。 ・状況に応じ、スタッフが間に入り、会話の橋渡しを行っている。		
34	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・暑中見舞いや年賀状などをだしている。 ・行事などの案内をし、参加していただき継続的に交流をもてるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日頃の生活の様子や会話、ご入居者面談の中から、ご本人の意向の把握に努めている。 ・定期的なミーティングや毎日の申し送りなどで、職員間でご入居者の立場にたって思いなどを話しあっている。		
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご本人、ご家族からの情報などを基に把握に努めている。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・日々の状況を記録に残し、現状把握に努めている。 ・職員間で情報交換し、いろんな目で見ても共有できるように取り組んでいる。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・日頃のアセスメントを基に課題分析を行い、職員間で話しあい、ご本人、ご家族を交え、家族面談を行い介護計画を作成している。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・毎月、評価を行い、三ヶ月、六ヶ月ごとに見直しを行っている。 ・状況に応じ、ケアカンファレンスを行い、現状に応じた評価、変更を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ご入居者の日々の様子、介護計画の実施状況、結果などを個人記録に残し、職員間で情報の共有に努め、介護計画の見直しの際に活かしている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・3階での入浴が難しい方には、1階の介護浴槽を利用させていただくなど状況、要望に応じ支援を行なっている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・地域の方よりボランティアとして、行事などに参加していただいている。 ・単独外出などがあった場合、すぐに対応していただけるように、日頃から、地域、警察の方などに協力依頼をしている。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・見学に来ていただいたり、情報交換を行い、協力をしていただいている。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・2ヶ月に1回の運営推進会議に参加していただき、協力をお願いしている。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居前からのかかりつけ医がある方は、入居後も利用を続けていただき、状況の報告など、支援に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診、受診の際に相談し、指示や助言をいただいている。 状況に応じて、受診に職員が付き添うなど、適切な診療が受けられるよう支援している。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	往診、受診の際に、日々の健康状態などについて報告、相談を行っており、助言をいただいている。		
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・出来る限り職員が、面会に行き状況把握に努めている。 ・病院、ご家族と密に連絡をとり、必要に応じて話し合いの場を持ち、今後の対応について検討している。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・ご家族面談などの際に、お話をさせていただいたり、入院時の状況などを考慮し、ご家族、医師と話し合いを行っている。 ・ミーティング時に話しをすることで、方針の共有に努めている		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・ご家族、かかりつけ医、ホームと話し合いの場をもち、ご本人にとって良い暮らしを送れるよう支援している。 ・変化に応じて、検討し連携に努めている。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住する際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護添書を使用し、情報提供を行なっている。 退居された後も面会に行ったり、手紙を出したりしている。 ・ご家族へも行事の案内などを行い、参加していただいている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない		
53	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めた納得しながら暮らせるように支援をしている		
54	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	○	・ハンドマッサージを取り入れたことで、リラックス効果、今までとは違った、お洒落の喜びを感じていただいている。
56	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている		
57	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○ 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を記入し、排泄パターンの把握に努め、トイレの声掛け、誘導を行っている。		
59	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望される方には、毎日入っていただけるよう支援している。 ・入浴の声掛けをする際に、何時ぐらいに入りたいかの希望を聞き、希望に沿えるようにしている。	○	午後のみの入浴だけでなく、希望に応じて午前中の中入浴、夕食後の入浴なども支援している。
60	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・お1人お1人に合わせ、休憩や臥床を促すなどの支援を行っている ・日中の活動を充実させることで、昼夜逆転を防ぎ、夜の安眠に繋げている。 ・ホットミルクの提供、身体のマッサージなども行っている。	○	・日中、居室で休むことを不安に感じられる方には、リビングのソファやリビングに畳を用意し休んでいただいている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・ご家族、ご本人より入居前の生活などの情報をお聞きし、出来ることは継続していただこう支援している。 ・楽しみや気分転換のための外出、行事などを計画している。		
62	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・個々の力量に応じて買い物の際に、財布を持っただき支払いを行っていただいている。 ・金銭管理が難しい方には、買い物の際に、小額を入れた財布を持っただき、購入することで喜びを感じていただいている。		
63	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・主となる玄関に施錠をせず、自由に出入りが出来る環境作りを行なっている。 ・散歩、買い物などの機会は設けているが、その都度、希望に沿えるよう支援行なっている。		
64	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	・個人レク、外出の計画を立てる際に、ご入居者の希望を取り入れながら、一緒に計画を立てている。 ・外出の際に、ご家族へ声掛けを行い参加が可能であれば、参加していただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご家族やご友人などから手紙が来た際は、返事を出すための支援を行ったり書くことが難しい方には、電話などの支援を行なっている。 ・年賀状、暑中お見舞いなどの支援も行なっている。		
66	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・ご家族、ご友人へいつでも訪問していただけるよう日頃よりお伝えし、一緒におやつや食事をしていただくなど、ゆっくり過ごしていただくようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制廃止委員会を設置しており、月1回のミーティングなどで話し合い、日々のケアの見直しを行なっている。		
68	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・居室、玄関に施錠はしておらず、出入りが自由に出来る環境作りを行なっている。	○	・施錠をしないことでの、ご入居者の安全をしっかりと確保していく。
69	○ 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・定期的に人員確認をおこなっており、職員間の連携を図り、ご入居者の状況把握に努めている。		
70	○ 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・普段の生活の中で使用していただく際は、職員が側で付き添い、見守りを行なっている。 ・夜間などは、ご入居者の手に触れないような場所へ保管を行なっている。		
71	○ 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・事故後、一週間、職員間で話し合いを行い再度、同じことを繰り返さないように努めている。 ・毎月のミーティング、日々の申し送りなどで、話し合い、事故防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・消防署の救命講習の受講や職員間の勉強会などで、常に確認は行なっている。 ・マニュアルを作成しており、日頃から職員各自でも確認を行なっている。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・総合避難訓練・部分訓練を定期的実施しており、昼夜問わず対応ができるようにしている。 ・必要な情報ファイルを、すぐに持ち出せる準備している。 ・地域の方へも、協力依頼を行っている。	○	・実際の災害を想定しての訓練を、今後も継続していくと同時に地域の方へ働きかけもしっかり行っていく。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・家族面談や面会の際に、近況などをご報告すると同時に、状態の変化などがあれば、対応策、リスクについて説明を行い、ご理解をいただいている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・その日のバイタルの把握に努め、特変に気付いた場合は、職員間で早急に情報を共有し、対応を行なっている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個別の薬内容表があり、用法・副作用について理解している。 ・個々にあわせた、服薬への支援を行い、服薬後も様子観察を行い、変化があれば、すぐに対応できるようにしている。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・個々の介護記録、排泄表などにより、排便の状況を把握し、日頃より乳製品、食物繊維の多い食事、水分の提供や個々に応じた運動を取り入れ排便につながるよう働きかけている。		
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後、口腔ケアを行っており、個々に応じて支援を行なっている。 ・週一回の歯科往診時に相談しアドバイスをいただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・お1人お1人の食事量・水分量の把握に努め、個々の状況に応じて、ミキサー食や刻み食の提供を行なっている。 ・一日の食事を通して、バランスが取れた食事提供に心がけている。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染に関するマニュアルがあり、外出後、食事前などの手洗い・うがいの徹底、消毒、調理時の注意点などを実施している。 ・感染症対策委員を設置し、ミーティングの際に感染予防について話し合い、徹底に努めている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・台所の整理整頓、調理用具の消毒を徹底している。 ・生で食材はを用せず、加熱調理を行ない食中毒予防に努めている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・庭に四季折々の花を植えている。 ・出入口に掲示板を用意し、ホーム内での取り組みや行事の案内などをお知らせしている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節に応じた花や、飾りをリビングや玄関にすることで、季節を感じていただいている。 ・場所に応じた空間作りを行い、ご入居者にとって、ゆったりと過ごしていただけるよう音楽を流したりしている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングにソファを配置し、好きな場所で気の合うご入居者とくつろいでいただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出の写真などを持ち込んでいただき、その方らしい居室の環境作りを行なっている。		
86	○換気、空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・冬場はエアコンと同時に加湿器を使用し、夏場は、冷えすぎないようにこまめに温度調整を行なっている。 ・乾燥、風邪予防のためお茶スプレーを徹底している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・手すりを設置しており、状態に合わせて使い分けをしている。 ・一階の浴室を介護浴槽に改修したことで、他階のご入居者にも利用していただいている。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・お一人お一人のわかる力を把握し、混乱や失敗を招くような表現を無くしていくよう努めている。 ・個々の居室前の表札を、目印となる物を使用したり、ご本人と一緒に作成している。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるよう活かしている	・庭にて家庭菜園を楽しまれたり、ベランダにプランターを置き、四季折々の花や植物を育て、育つ姿を楽しまれている。 ・天気の良い日は、庭にて食事をしたり、茶話会を行なっている。		

.サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の 2/ 3 くらいの
			利用者の 1/ 3 くらいの
			ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に 1 回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/ 3 くらいが
			利用者の 1/ 3 くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/ 3 くらいが
			利用者の 1/ 3 くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の 2/ 3 くらいが
			利用者の 1/ 3 くらいが
			ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/ 3 くらいが
			利用者の 1/ 3 くらいが
			ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/ 3 くらいが
			利用者の 1/ 3 くらいが
			ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
		○	家族の 2/ 3 くらいと
			家族の 1/ 3 くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
		○	数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
		○	少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くない
100	職員は、活き活きと働いている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の 2/3 くらいが
			職員の 1/3 くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の 2/3 くらいが
			利用者の 1/3 くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
		○	家族等の 2/3 くらいが
			家族等の 1/3 くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・日常生活の中で、ご入居者がそれぞれ得意とすることで主役となっただけよう支援を行なっている（家事、掃除、書道など）
- ・個別での関わりをもつことで、ご入居者の希望などを聞き取り、支援の中に組み込んでいる。
- ・地域との交流、関係作りに力を入れている。